

# 不安なく、 退院するために…

退院支援看護師 大須賀 裕子

医師から退院許可が出た時に、患者さまやご家族は、退院後の生活について不安を持たれることもあるのではないのでしょうか？

今年の4月より患者さまが転院や退院する際に、転院先施設や自宅での生活に支障なく、継続した看護が提供できるように支援させていただき、看護師として退院支援看護師となりました。

先日も、自宅に帰られる患者さまが、退院後は当院に通院する事が困難なため、近くの医院に往診をしていただくこととなりました。そこで、往診をしていただく医師を病院に招き、主治医からの病状説明・看護師から家での生活の注意事項を伝え、患者さまやご家族が、退院したその日から困ることのないよう打ち合わせを行いました。

また、聖隷訪問看護ステーション千本の看護師やケアマネージャーと連携を持ち、様々な医療・福祉サービスを使い、患者さまが安心して転院、退院が出来るようにお手伝いをさせていただいています。

退院のとき、困ったことがありましたら、是非、A棟2階、病診連携・医療相談室にお越し下さい。退院支援看護師としてサポートさせていただきます。



退院支援を受けて退院される患者さま  
(携わったスタッフに囲まれて…)



当院の医師と近隣の医院の  
先生達による話し合い

## お知らせコーナー

### 一般受付（診療）時間

平 日…午前 7:30(9:00)～午前 11:30  
午後 1:00(2:00)～午後 4:00  
土 曜…午前 7:30(9:00)～午前 11:30

※受付開始は午前 7:30からです  
※各科で受付時間が異なります。  
「各科外来担当医一覧表」をご確認ください。

### 面会時間

平 日…午後 1:00～午後 8:00  
日・祝日…午前 10:00～午後 8:00

★予防接種（必ず保険証・母子手帳・通知書を持参し  
保護者同伴でおこしください）

乳幼児	毎週 火・木曜日	12:45～13:30
小・中学生	毎週 月～金曜日	9:00～11:00
		14:30～16:00
	毎週 土曜日	9:00～11:00

予防接種の種類により曜日が異なる場合がございます。来院前に小児科外来へお問い合わせください。

### 在宅看護・在宅介護でお困りのことはございませんか？

病院と連携を図り、より良い在宅生活が過ごせるように患者さま・ご家族さまと協力し充実した在宅サービスの提供をいたします。

生活の相談・指導、医療的処置を行う又は指導、ターミナルケア、身体介護、生活介護等いつでもお気軽にご相談下さい。

聖隷訪問看護ステーション千本  
聖隷ヘルパーステーション緑町  
TEL 055-952-1020

### 人間ドック・健康診断のお知らせ

人間ドック及び各種健康診断は予約制となっております。  
お申込み、お問合わせは下記健康診断センターまでご連絡願います。

全国健康保険協会 「一般健康診断」指定医療機関  
日本病院会指定 「優良人間ドック施設」  
「人間ドック・健診施設機能評価」  
全国労働衛生団体連合会 「労働衛生サービス機能評価機構認定」  
中央労働災害防止協会 「健康診断機関名簿登載」

人間ドック(2日コース・1日コース)  
全国健康保険協会(一般健診) 脳ドック その他健康診断

聖隷沼津健康診断センター  
TEL 055-962-9882

問い合わせ時間 9:00～17:00(土曜日は12:00まで)

## せいい通信

### 高校生1日看護体験



7月30日と8月7日に高校生1日看護体験が開催されました。近郊の高校から今年は2日間で41名の高校生が参加し、白衣に着がえて各病棟にて看護師と共に入院患者さまの介助のお手伝いをしました。

高校生にとって、これからの進路を決めるうえで貴重な体験となったのではないのでしょうか。



〒410-8555  
沼津市本字松下七反田902-6  
TEL (055) 952-1000(代)  
FAX (055) 952-1001

<http://www.seirei-numazu.com>



## 職場シリーズ パート①

各病棟・職場の特色や取組みを紹介していきます！

### ～A3病棟～

A3病棟は、脳神経外科と内科の混合病棟です。特に脳神経外科の患者さまの割合が多く、病棟の70%を占めています。

病気としては脳卒中や突然の頭痛が特徴的なクモ膜下出血や慢性硬膜外血腫（これは一ヶ月位前の転倒などの頭部打撲により起こります）などが代表的です。クモ膜下出血や慢性硬膜外血腫では入院して即手術という事も多く見られます。脳卒中による麻痺に対しては日常生活の自立を目指し、早期から積極的に手・足の運動を理学療法士と共にリハビリテーションに取り組んでいます。

A3病棟の患者さまは日常生活の援助を必要とする方が多く、特に自分では動けない患者さまが病棟の半数以上を占めています。そのため、患者さまに褥瘡（床ずれ）を作らないよう患者さまに合わせた体の向きを考え、看護を行っています。

さらに私たちは、患者さまやご家族が安心して自宅に帰られるよう、または療養施設に転院できるよう、医師・病棟看護師・退院支援看護師・ソーシャルワーカー・訪問看護師等が連携を取り合い、患者さまの社会的背景を考慮した退院調整を進めています。

これからも、A3病棟では患者さまやご家族が安全で安心な入院生活が送れるよう、質の高い看護を目指していきます。



褥瘡(床ずれ)予防のための体位交換



医師や看護師による退院調整の話し合い

(文責：高田 幸江)